

「障がいスポーツではなく『生涯スポーツ』として」

熊本県立小国支援学校 山内雄一郎

本校では「将来にわたる豊かなスポーツライフの育成」をテーマに、小-中-高等部、そして卒業後を見据えた体育や体育的活動に取り組んでいます。

小学部では、いろいろな体の動きの向上を目指した「基礎づくり」、中学部では、仲間づくりを意識し、集団で行う運動の楽しさを体験する「基礎から応用」、そして高等部では、卒業後の習慣形成につながる種目設定をベースにした「応用から発展」をイメージし、それぞれ内容を設定しています。

その特徴的なものが「フロアホッケー」を中心とした取り組みです。これまで各学部での「体育の授業」から始まり、「学校行事」「小・中、高等学校との交流」、スペシャルオリンピックスやフロアホッケー連盟の協力を受けながら「地域体験会」「小国カップ（地域交流大会）」「特別支援学校・学級の生徒を対象とした体験会」「SO韓国チームと親善試合」「支援学校対抗戦」「九州、全国大会への出場」「県内教職員向けの講習会」など、様々な機会を設定し、活躍の場を拓けてきました。



関わらず、地域の方々がフロアホッケーに生涯取り組んでいける環境を作ることもできました。

これまでの6年間の取り組みについて、10月7日（金）に本校で開催された特別支援学校体育研究発表会で「特別支援学校における『体育』の再考」をテーマに発表させていただきました。

午後からのワークショップでは、豊かなスポーツライフを形成するため「何が必要か？」を障がい種ごとのグループでアイデアを出し合い、本校のみならず、県下の特別支援学校の体育・体育的活動の充実について再考する機会となりました。

「共生社会の実現」そして、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障がいのある方々のスポーツ活動へ注目が集まる中、今後、特別支援学校の「体育・体育的活動」に大きな期待が寄せられるのではないかと思います。そのためにも、さらなる充実・発展を目指し「障がいスポーツ」から『生涯スポーツ』へつながるよう、体育の充実を図っていきたいと思っています。

